

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年10月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0110510476		
法人名	医療法人中山会新札幌パウロ病院		
事業所名	グループホーム春桜		
所在地	〒004-0002 札幌市厚別区厚別東3条6丁目1番5号 (電話) 011-897-0733		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年10月5日

【情報提供票より（平成21年8月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 14年7月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	25 人	常勤19人, 非常勤6人, 常勤換算22.3人	

（2）建物概要

建物構造	壁式RC	造り
	3階建ての	1～3階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	50,000 円	その他の経費（月額）	16,000～19,000 円	
敷金	有（ 円）	<u>無</u>		
保証金の有無（入居一時金含む）	有（ 円）	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	380 円
	夕食	380 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,140 円	

（4）利用者の概（8月27日現在）

利用者人数	25名	男性	9名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	10名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 83.96歳	最低	75歳	最高	97歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人中山会新札幌パウロ病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は住宅街にあって、緑豊かな広い敷地内に立地している。事業所の前には広いスペースがあり、花壇やベンチが多数設置され、憩いの場となっている。事業所内部も広く、車椅子でもゆったりと生活できるよう設計している。母体法人であるパウロ病院とは、渡り廊下で繋がり、医療連携体制も整備され、利用者や家族の安心に繋がっている。職員は、法人共通の基本理念である「大切な命を元気で楽しい命に」を念頭に、利用者を尊重し、聞く姿勢を大切にしながら支援している。また、地域との交流も深まっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回課題である市町村との連携については、連携をとる機会が増えてきている。地域密着型の理念の策定と災害時の地域住民との協力体制づくりは、現在検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は、管理者と計画作成担当者、ユニットリーダーが、項目ごとに振り返りを行い、点検をして作成している。自己評価は、法人内共通の自己評価システムを実施していることもあって、職員全員での取り組みには至っていない。今後、職員全員が参加しての自己評価項目毎の点検や共通認識を深めることに取り組むことによって、事業所の更なる質の向上を期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	運営推進会議は、2ヶ月ごとに定期的に開催し、事業所の行事内容や外部評価、認知症介護について等の説明を行い、出席者から意見や要望を聞いている。また、地域包括支援センター職員から、地域の認知症高齢者の動向や在宅の現状などの説明を受け、事業所としての役割を話し合っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	家族からの意見や要望は、運営推進会議や家族来訪時に聞いている。話しやすい雰囲気づくりや聞くことについての姿勢に心がけ、出された意見や要望は、家族ノートに記載して、職員全員が共有し対応できる体制にしている。重要事項説明書に、内部・外部の苦情相談窓口を明記し説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	町内会に加入し、経営者は町内会行事に参加をしている。利用者は、母体法人病院と事業所合同の夏祭りや花火大会、地域の学校祭や展示会見学、教会行事などに参加をして地域住民との交流を深めている。また、事業所見学会を実施して、双方向的な交流が少しずつ深まってきている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人と共通の基本理念と基本方針があり、その理念を具体化するための事業所独自のサービス内容を掲げているが、地域密着型サービスとしての内容には至っていない。	○	基本理念や方針を基に、地域密着型サービスとして地域との交流を目指した内容も検討するなど、地域のなかでその人らしく生活できるよう更なる支援が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念カードを携帯し、常に意識しながら、基本方針に沿った支援に取り組んでいる。カンファレンスでは、理念についての確認や話し合いを行い、ユニット内に理念を掲げ、職員採用時にも説明をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、経営者が町内会行事に参加をしている。利用者は、母体法人病院と事業所合同の行事等に参加することで、地域住民との交流を深め、事業所見学会を実施し、双方向的な交流が少しずつ深まってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、管理者と計画作成担当者、ユニットリーダーが、項目ごとに振り返りを行いながら検討し、作成している。管理者や職員は、自己評価実施についての意義を理解しているが、全職員が自己評価に取り組む体制には至っていない。	○	自己評価は、法人内共通の自己評価システムを実施していることもあって、職員全員での外部評価や自己評価への取り組みには至っていない。自己評価項目毎の点検や職員の意識を合わせるように取り組むことによって、事業所の更なる質の向上を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月ごとに定期開催し、事業所の行事内容や外部評価、認知症介護についてなどの説明を行い、意見や要望を聞いている。また、地域包括支援センター職員から、地域の認知症高齢者の動向や在宅の現状などの説明を受け、事業所としての役割を話し合っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、運営推進会議の内容を報告したり、申請書類の提出やオムツ支援などで連携をとる機会が増えてきている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に、利用者の暮らしぶりや金銭管理についての報告をし、変化があった場合は、電話で知らせている。以前は毎月定期的に発行していたユニット便りで、利用者の暮らしぶりや行事予定、個別記入欄を設けて報告していたが、現在は2～3ヶ月ごとの不定期の報告となっている。	○	以前は毎月定期的に発行していたユニット便りが、現在は不定期発行となっていることもあり、離れて暮らす家族の安心に配慮した、きめ細かな積極的な報告を期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や要望は、運営推進会議や家族来訪時に聞いている。話しやすい雰囲気づくりや聞くことについての姿勢に心がけ、出された意見や要望は、家族ノートに記載し職員全員が情報を共有し対応できる体制にしている。重要事項説明書に内部、外部の苦情相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、法人共通の人事考課制度を採用し、職員の自己啓発を促すとともに、休憩時間の確保や状況に応じて夜勤を2名体制にする等の勤務調整を行い、働きやすい環境を整えている。その為、離職はほとんど無く、利用者とのなじみの関係が築けている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の病院が主催する院内研修を、毎月希望者が受講している。年1回の院内発表会では、ターミナルケアについての症例を発表している。外部研修については、認知症ケア、リスクマネジメント、ケアプランの立て方など、職員各自の段階に応じた研修に参加する機会を確保し、研修報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区の管理者会議やケアマネジャー会議に参加して、同業者との交流を行っている。その他、法人内や区内のグループホームとの交流があり、区の合同研修会に参加予定となっているが、職員同士の交流までには至っていない。	○	管理者は、同業者との交流の機会を持ち、ネットワークを行っている。さらに、職員同士の交流を通じて共に学ぶ機会を確保し、一人ひとりのスキルアップを図る取り組みに期待したい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、必ず本人や家族の事業所見学を行い、ゆっくりと話をきいている。また、ショートステイ体験も可能で、体験を通して事業所の雰囲気になじみながら、家族と本人の意思を確認するよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、世話をする、されるという立場ではなく、共に生活する一人として、本当の家族のような関係を大切に支援している。また、利用者から、生き方のヒントや親孝行の仕方、生活の知恵などを学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、普段の何気ない会話や利用者の思い出話などから、なじみの暮らしや希望を把握するよう努めている。また、家族や在宅時のケアマネージャーからも情報を得て、センター方式の活用や毎日の記録に情報を蓄積し、職員間で共有をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者の担当職員が本人や家族の希望に沿ったケアプラン内容をまとめ、全職員参加のケアプラン会議で意見やアイデアを出し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の不安定時や退院後などには、1～2週間程度24時間の生活リズムを観察し、細かな出来事や心の変化を中心に利用者の状態を把握し、職員間で検討をして利用者の現況に合った、介護計画の変更をしている。定期的な見直しは、3ヶ月を目途に、月2回のケアプラン会議で検討をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の病院との医療連携体制を活かし、家族や本人の希望に沿って、利用者の24時間体制での健康管理や内科・歯科の通院介助、入退院時の協働体制を支援している。ショートステイやデイケアの利用も支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望によっては、利用開始前からのかかりつけ医を継続受診する体制をとっている。また、整形外科や認知症などの専門医受診も希望に合わせて支援し、家族へ受診内容の報告も適切に行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に、家族や本人の意向を聞き、重度化や終末期における事業所として最大限可能な支援内容を説明している。また、重度化の早い時期から、隣接する協力病院との連携を密に図り、状況の変化に応じて、家族や関係者との話し合いを重ね方針を共有し、支援しているが、指針の整備が不十分である。	○	重度化や終末期における対応指針を具体的に文書化し、家族や本人に提示し方針の共有を図る体制づくりを期待したい。また、管理者や職員は、重度化や終末期に向けての研修や職員教育を受け体制づくりを強化しているので、更なる取り組みを期待したい。
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、利用者を人生の先輩として尊厳を保ち、また、利用者の不安な気持ちを理解しようとする姿勢を大切にして、利用者への話しかけや誇りやプライバシーを損わない対応を心がけている。ユニットリーダーや管理者は、職員の対応について点検や指導をしている。個人情報の取り扱いも徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースを大切にして、その時の気分や体調を考慮し、行事への参加や希望の入浴、就寝時間など柔軟に対応している。また、利用者の希望をできるだけ聞き逃さないように心がけた、支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のやる気や能力に応じて、職員と一緒に野菜切り・味見・盛り付け・配膳下膳・食器洗い・食器拭き・テーブル拭き等の作業を楽しみながら行えるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の習慣や気分を大切にして、週2回以上の入浴支援をしている。主に、午後からの入浴になるが、希望により、朝のシャワー浴や毎日の入浴も行っている。また、浴室に花を飾るなどして、リラックスできるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じた役割が持てるように作業分担などを工夫して、張り合いや生きがいを感じられるよう支援している。楽しみごとや気晴らしの支援については、野菜づくりや収穫、作品展への作品の製作、趣味などの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町内の散歩・喫茶店でのお茶や外食・買い物などの、日常的に外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は、防犯上安全確保のため施錠しているが、日中は、開錠し自由に入出りできる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、設備点検と避難訓練を年2回実施している。さらに、隣接する母体法人病院との連携協力体制が整っている。なお、地域との協力体制は、運営推進会議で話し合っているが、協力体制を築くまでには至っていない。	○	運営推進会議で、地域との協力体制の必要性を確認しているが、さらに具体的な協力体制の整備に取り組まれることが求められる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立付きの食材が契約業者から届き調理しているが、利用者の希望により臨機応変にメニューを変更している。カロリーやバランスチェックも把握できるようになっている。嚥下機能の低下が見られる利用者には、刻み食にする等、誤嚥のないように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くゆったりとした共用空間は、明るく開放感を感じる。廊下の幅は、車椅子での交差がゆったりと出来る広さを確保しており、ベンチや椅子を置き小人数で過ごせるスペースを設けている。台所は、大きなアイランド式キッチンで、利用者と一緒に作業しやすい広さを確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、広くて明るく、自分の時間をゆっくりと過ごせる空間になっている。また、利用者は、家族と相談しながら、自分の使い慣れた家具や趣味の物を持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫をしている。		

※  は、重点項目。